

A scenic view of a valley with green fields, a small town, and mountains in the background. The foreground shows lush green foliage. The middle ground features a large green field, possibly a rice paddy, with a small white vehicle. To the right, there is a cluster of buildings, including a large traditional-style building with a dark roof. The background consists of rolling green hills and mountains under a blue sky with light clouds.

かわうちかえる会議 報告書

平成29年6月

はじめに

会議の設立趣旨

平成28年6月、東日本大震災及び東電福島第一原発事故後に川内村に出されていた避難指示が全て解除された一方、原発事故特有の問題に加え、人口減少、少子高齢化、農林業の再生といった様々な課題に直面している。

今後、本格的な復興にあたっては、住民の方々、特に若い方々が希望を持って暮らせるような、そして多くの人々を惹きつけるような魅力ある村づくりが重要となっている。そのためには、行政だけではなく、住民一人一人が「川内村に住み続ける誇りや意義、どのような川内村を目指していくのか」を考え、村全体で復興を推し進めていかなければならない。

このため、住民、有識者、行政が参加し、①村内での活躍・いきがいの場となる「産業」、②村外居住者との交流を深め、村づくりを支える「交流人口」、③住民のくらしの基盤となる「生活環境」を中心に、川内村が目指すもの、その実現に必要な方策について、検討を重ね、川内村のむらづくりの方向性の案として、「かわうちかえる会議報告書」をとりまとめることとした。

(参考) これまでの開催実績

第1回	平成28年10月21日	(出席者30名)
第2回	平成28年12月14日	(出席者31名)
第3回	平成29年2月9日	(出席者27名)
第4回	平成29年3月21日	(出席者32名)



川内村の復興・再興に向けた3つの取組分野

“若者をはじめ住民の方々が希望を持って暮らせるような、
また多くの人々を惹きつけるような魅力ある村づくり”

【分野1】産業振興

川内村ならではの資源を活かした農林業、新たな農業や産業創出による、魅力・賑わいづくり

- ・ 新たな農業・産業づくり
- ・ 地域ぐるみでの農林業体制の確立
- ・ 担い手確保に向けた取組 等



【分野2】交流人口拡大

これまで培ってきた文化/歴史、温かい人柄、美しい自然など多様な魅力を活かした、村外との新たな交流づくり

- ・ 来訪者の趣向等を踏まえた効果的PR
- ・ 来村者の受入環境づくり
- ・ 村外との交流・絆づくり 等



【分野3】生活環境整備

地域一体となった教育などの取組や村の特徴を活かした、川内村らしい魅力ある生活環境づくり

- ・ 一人ひとりに寄り添った教育の推進
- ・ 住環境整備(空き家、民泊の活用等)
- ・ コミュニティ活動の充実化 等

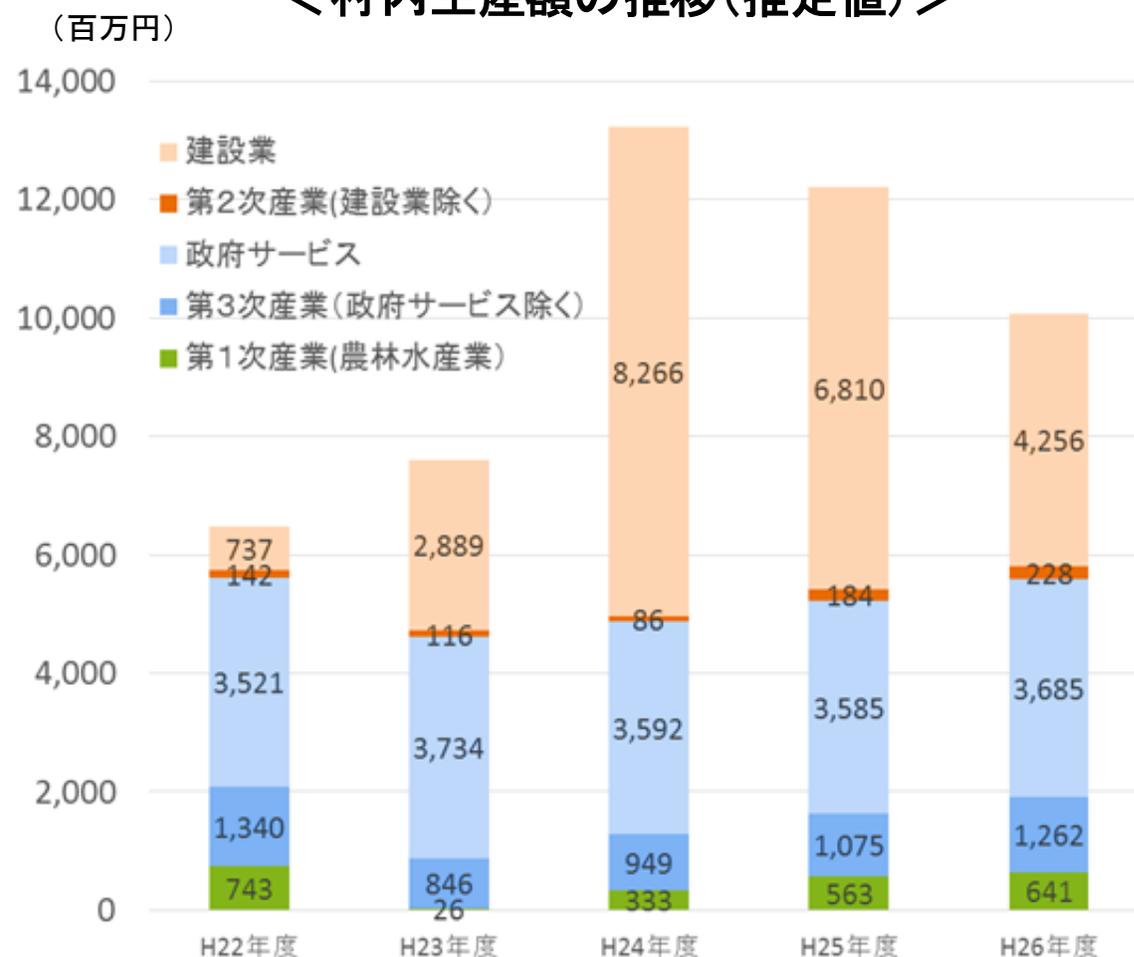


震災直後、農林業はじめ多くの業種において生産額の落ち込みが見られたが、最近では震災前の水準に近づいている。周囲の環境変化が進む中で、復興の加速化と新たな事業への挑戦が進んでいる。

農林業は、農林業従事者の減少、震災の影響などによる労働力不足、耕作放棄地が増加、森林整備が停滞。一方で、新たな農作物の栽培への挑戦、食品加工・販路開拓などの高付加価値化の取組、新たな営農組織の組成、林業事業者の参入などが進んでいる。

商工業は、震災を契機とした人口減少や環境変化により村の雇用機会や賑わいが減少。一方で、新たな産業として菊池製作所、Kimidori、コドモエナジーなどの企業立地が進むとともに、産業団地の造成、イベント開催や事業再開など、徐々に賑わいの回復や、新たな産業づくりが進んでいる。

＜村内生産額の推移(推定値)＞



※県民経済の値を、統計指標等で各市町村に按分して推計。
出典：福島県市町村民経済計算年報

今後、川内村の美しい**農林地を再生・保全**しつつ、**ワインぶどう、エゴマ、希少野菜**などをはじめ**新たな農林業**を含めて、村全体での**再興・発展**を目指す。

- ✓ 村の自然環境を活かした**新たな農作物**への取組を進める
- ✓ **流通網の整備**や**販路開拓**など高付加価値化に向けた取組を進める
- ✓ 農林業事業者などの事業者と**村役場との情報交換**を行う
- ✓ **森林整備**を継続的かつ着実に進める/**林業関連事業者等の村内立地**を進める
- ✓ **集落営農組織**や農業生産法人、**林業関連事業者組合**の組成・充実化など、**地域ぐるみの組織**による**農地の保全管理**や、**効率的な森林整備**を進める
- ✓ **農林業体験・教育**等や村外住民の**受入環境づくり**などを通じた**担い手育成・確保**の取組を進める



(エゴマの栽培)

具体的取組：ワインぶどう栽培

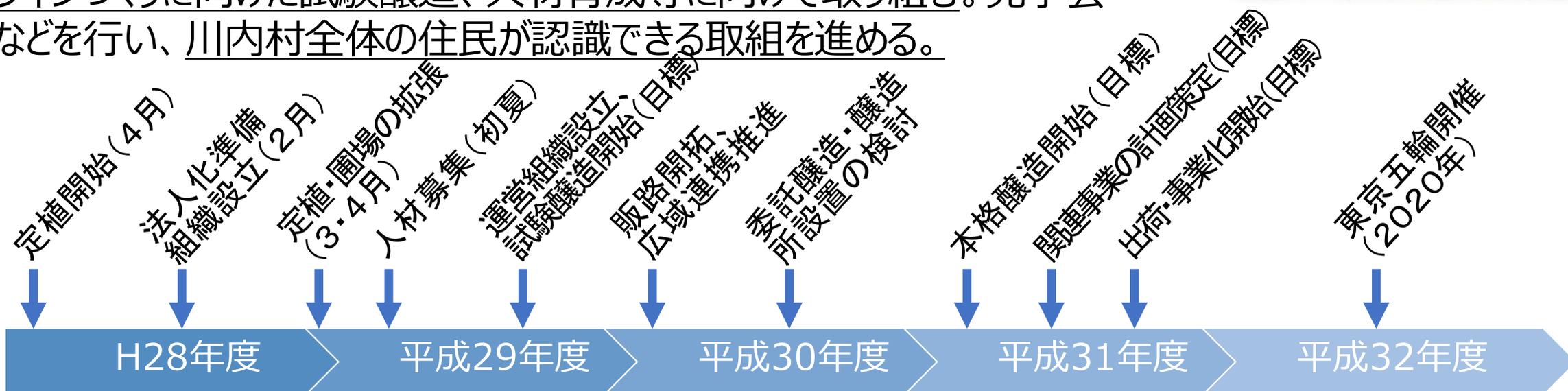
(基本的な方向性)

ワインは現在も消費量が拡大している酒類。東京五輪開催（2020年）に向けて、地元住民や山梨・山形など先進地域のワイナリー、山梨大学等と連携しながら、品質の高いワインを醸造、地域ブランドとして確立・事業化を行い、川内村の誇りとできるような事業を目指す。また、ワイナリー整備を中心として派生的な事業展開、広域連携も視野に、観光促進に繋げることを図る。

(今後の取組)

浜通りの気候（東北で最も日照時間が長い）や土壌（水はけのよさなど）に着目し、平成28年より栽培開始。現在約1万本、2.5haまで拡張した。

今後、かわうちワイン推進協議会（村、高田島ワインぶどう研究会、商工会、（一社）日本葡萄酒革進協会等）において、事業運営組織の組成・強化、ワインづくりに向けた試験醸造、人材育成等に向けて取り組む。見学会などを行い、川内村全体の住民が認識できる取組を進める。



今後、若者等への**雇用機会の創出**、**安定した世帯収入の確保**などを旨し、**新規立地事業者**も含めて村全体での**商工業の活性化**、**賑わいのある村づくり**を進める。

- ✓ **新規**の立地企業についても、**川内村の地場産業**として認識した取組を進める
- ✓ **田ノ入工業団地**の**着実な整備**や**企業立地・事業再開**を進める
- ✓ 村内イベント、アンテナショップ等を活用した**地域産品・サービスの積極的な広報・販売促進等**を進める
- ✓ 村においても**就職情報の発信等の支援**を検討する



(販売促進 於：仙台市)

具体的取組：工業団地整備、企業立地

(基本的な方向性)

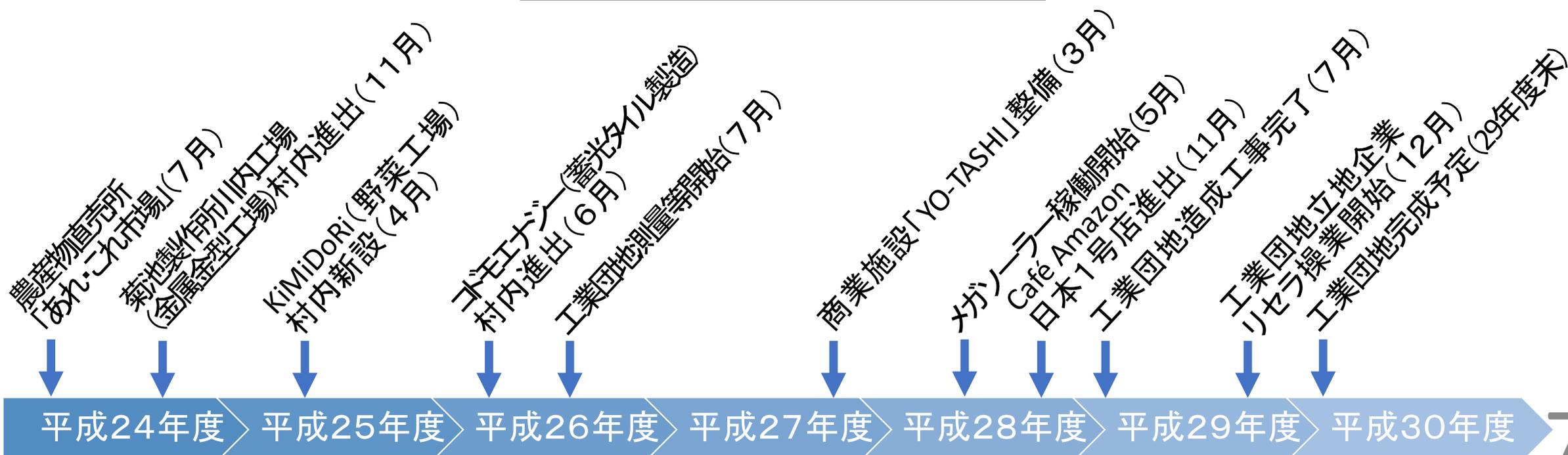
田ノ入工業団地(14.9ha)等も活用した企業立地の推進等により、安定した雇用の場を村内に確保する。社員宿舎等住宅用地の確保により従業員の定住促進を図る。



(田ノ入工業団地)

(今後の取組)

田ノ入工業団地の着実な整備を進めるとともに、村内進出検討企業等へ効果的な魅力の発信を図り、立地を進める。また、村においても就職情報等の発信を通じて、従業員確保に向けた取組を進める。



※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

1. 新しい農業

- ①エゴマ、ワインなどで、非日常的で、川内村ではかっこいいライフスタイルを目指せることを示したい。ワイン畑にワインを飲みながら食事をできる所など、おしゃれな雰囲気若い人が関心を持てば村も活性化する。
- ②大平圃場では、グリーンツーリズムをやるにせよ、電気、水などインフラが必要になる。
- ③フランスのラベルルージュのようなワインの基準ができないか。
- ④ワインの葡萄畑の情報が入ってこない。やってることを知らない人もいるのではないか。
- ⑤エゴマ栽培の6次化に取り組みたい。風評被害に関わらず、「川内産」として出したい。将来は搾油から販売まで村内で行いたい。
- ⑥野菜勉強会で（食の欧米化に合わせ、）西洋野菜を作り始めた。いずれは料亭にも出したい。
- ⑦農家レストランをやってみたい。
- ⑧風評被害に左右されないために、福島県産でなければならない品質・強みが必要。

2. 農林業の再生・保全、担い手育成

- ①農業機械など維持管理が大変、補助金がなくなったら維持できない。米価が下がる中、機械の更新時期に辞める人が多い。
- ②住民同士で互いに情報、人手を共有し合うべき。仲間を増やす機会や行政以外での緩やかな繋がりが必要。
- ③農林業者との膝詰の議論ができていない。
- ④村内の若者は草刈機も使ったことがない人が増えている。すぐに農業はできない。体験などが重要になってくる。
- ⑤米づくり体験など、子ども・大人にも触れ合いの場を作るべき。都会の人たちとの交流づくりもよい。
- ⑥村外からの農業・酪農希望者への受入支援が重要。

※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

3. 林業

- ① 今森林整備を進めなければ、木としての価値を失う。
- ② 森林整備は時間がかかる。長期的な支援継続が必要。
- ③ 運搬費削減のため近隣に木質チップ加工施設がほしい。
- ④ 林業は除染に比べ危険で給料も低い。担い手確保は厳しい。
- ⑤ 健全な山に戻すためには、（担い手である）若者の取り込みが必要。住環境、安定した収入の確保に取り組みたい。
- ③ 年間を通した安定した収入、世帯収入になる仕事が必要。
- ④ 村の特産品にブランドロゴをつけ、仙台、東京の百貨店へ販売したい。

4. 商工業、販売促進等

- ① 内閣総理大臣賞を頂いたルナウェアを川内村の地場産業にしていきたい。
- ② 人材不足、従業員の高齢化が問題。作業に無駄が生じたり、個人の負担が増えている。

震災以前からグリーンツーリズムなどを試験的に実施。震災以降は、一時休業していた「いわたの郷」、「かわうちの湯」が再開。また、村の三大祭り（ドウダン祭り、天山祭、かわうち祭り）の再開・充実化に向けた取組が進められるとともに、マラソン大会やBON・DANCEなどの新たなイベントの開催により、若年層を含め幅広い世代の方の来村が増加。さらに、震災以降、福島大学や長崎大学などの高等教育機関や小野町など他の自治体との交流も拡大しており、村外との多様なつながりが生まれつつある。



「かわうちの湯」再開（H25年）



「いわたの郷」再開（H26年）



長崎大学・川内村連携協定



福島大学講義「むらの大学」



天山祭



かわうち祭り



BON・DANCE



かえるマラソン

今後、**来訪者の趣向**や村内観光資源を踏まえ、**効果的な情報発信**、**魅力向上**、**収益化**に取り組み、**産業としての交流人口の拡大**を図る。また、体験ツアーやイベントなどを通じ、**村外の人との関係性を深める**ことで将来的な**移住・定住人口**の増加を目指す。

- ✓ 観光資源を踏まえ**来訪者の趣向**についての**調査・分析**を行う
- ✓ **役場HPの更新**、**ロゴの作成**、**映像の活用**などをはじめ**効果的な情報発信**を行う
- ✓ 村内施設の**有効活用**やイベントの**充実**により**収益化**を図る
- ✓ **合宿**、**教育旅行**、**オーナー制度**、**グリーンツーリズム**などを検討し**交流人口拡大の取組を進める**。また、**民泊**等の来訪者受け入れの取組を持続的なものとするため、これらを**支援する組織**や**運営体制**、**村内の研修**などを検討する
- ✓ 「**ふる里かわうち会**」や各種イベントの**サポーター**など村外の人との**関係性の強化**、**村との交流・絆づくりを進める**



(Café Amazon)



(マラソン大会)

具体的取組：効果的な情報発信

(基本的な方向性)

村・商工会・観光協会等の連携の下、来訪者の趣向の調査・分析を行い、その結果に基づいた、川内村の魅力の効果的な発信を行い、交流人口の拡大を目指す。

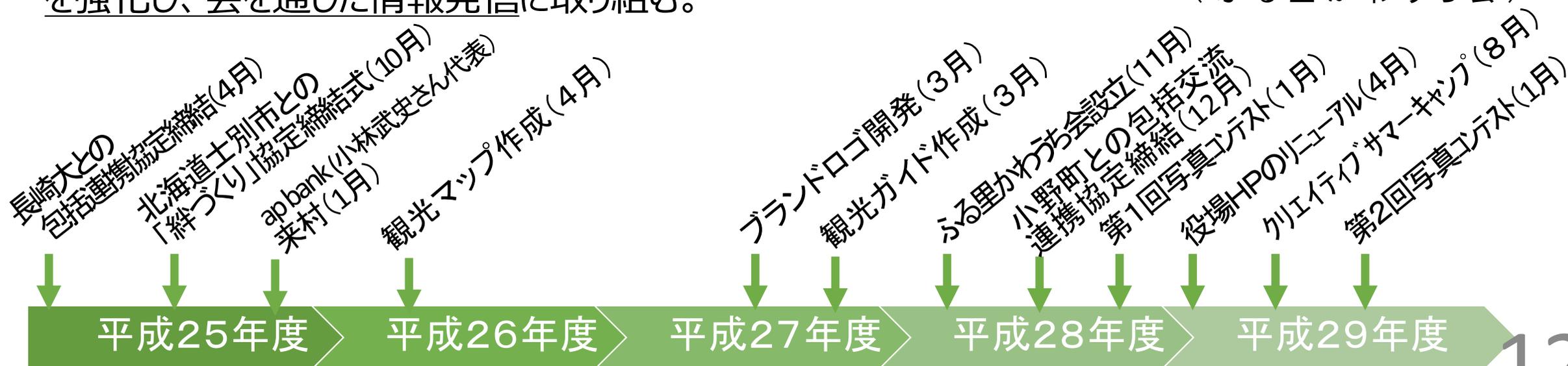
(今後の取組)

村内イベント・施設でのアンケート調査を集計・分析するとともに、外部委託含めた詳細調査を検討する。また、ブランドロゴの普及、若手クリエイターによる動画制作（（一社）my Japanによるクリエイティブサマーキャンプ）、役場HPのコンテンツの充実化等により、村の認知度の向上、ブランドイメージの積極的な発信を図る。

併せて、川内村にゆかりのある方々が集まる「ふる里かわうち会」との関係性を強化し、会を通じた情報発信に取り組む。



(ふる里かわうち会)



具体的取組：交流人口拡大にむけた環境の整備

(基本的な方向性)

来訪者と住民との交流により、関係性を強化し、リピーター化・収益性向上を目指す。そのために、事業運営体制を構築し、安定的な事業実施を目指す。

(今後の取組)

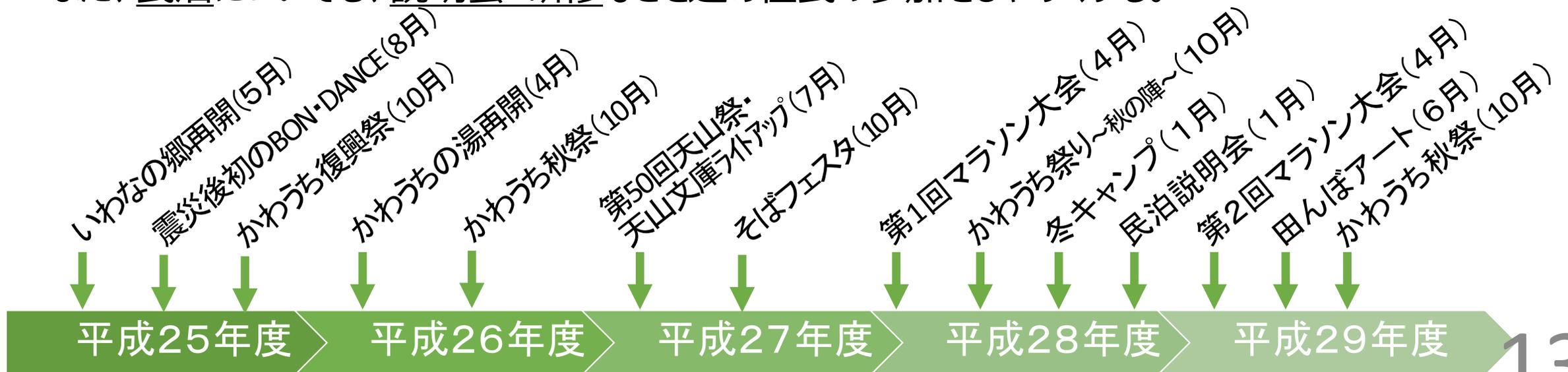
かわうちの人柄・土地柄を活かした、合宿、教育旅行、グリーンツーリズム、オーナー制度等について、支援組織の検討など、受け入れ体制の充実化に取り組んでいく。

イベントと販売などの連携、民泊などにより、交流人口の拡大に伴う収益化を進めていく。各種イベント間の連携、施設の有効活用を「観光指針に沿った統一的施策の実施に関する検討会」などを通じて検討していく。

また、民泊についても、説明会・研修などを進め住民の参加をしやすいとする。



(グリーンツーリズム)



※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

1. 効果的な情報発信

- ① 闇雲に取り組んでも効果は期待できない。来訪者の趣向を調べて、目標を絞り、観光コンテンツを作っていきたい。
- ② かえるマラソンなどでもアンケートを取るべき。
- ③ HPは記憶に残るインパクトのあるものを目指し、どんどん更新していくべき。
- ④ ワイン畑をドローンで撮影し情報発信できるという。
- ⑤ 個々の世帯で出来ないのが宣伝。協議会や外部の力を借りるなど、宣伝ができる受け皿づくりが必要。
- ⑥ ふる里かわうち会にもっと協力をお願いすべき。また、村側も連携する体制が必要。

2. イベントや施設について

- ① 単発のイベントではなく、統一性を持たせるべき。
- ② そばフェスタ、マラソン大会では物産が売れている。
- ③ 今後、カフェアメイゾン在国内展開していく中で、川内村店を研修施設として活用し、交流人口拡大、地方活性化に役立てたい。
- ④ マラソンランナーの定期来村などリピーターを増やすべき。
- ⑤ 音楽系の合宿など、ニッチな分野での合宿需要を狙っていく戦略がよいのではないか。
- ⑥ キャンプと野外コンサートを組み合わせるかどうか。

※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

3. グリーンツーリズムや民泊について

- ①（お金を払ってでも）喜んで農家の手伝いをやる人もいる。村の「日常生活」でも村外の人には特別な体験。
- ②都会の子ども達に田舎暮らしを楽しんでもらおうと体験活動に協力した。また、グリーンツーリズムの取組があれば協力したい。田植え、除草、収穫など、期間をとって体験できれば、魅力が伝わると思う。
- ③一度来訪者を泊めたが、その時の関係が今でも続いている。
- ④震災前、農業体験者は川内の米をよく買ってくれていた。継続的な関係づくりが重要。
- ⑤民泊は準備が面倒。初対面の人を招くことに抵抗があると思う。おもてなしセミナーがあるとよいかもわからない。
- ⑥10年後のことを考えると田んぼを耕す人がいなくなるので、田んぼのオーナー制度、果物のオーナー制度などもよいのではないか。

4. 川内村の資産他

- ①川内村の純朴な気風は宝。十分集客できる。
- ②川内村にしかない食、物産、体験を確立すべき。
- ③村の魅力として草野心平氏の作品がある。草野心平氏の関係での交流はたくさんある。天山祭も趣向を凝らしていくべき。
- ④風評被害対策も実際に訪れてもらうのが一番。

震災以降、H24年4月、村内教育施設（保/小/中）再開、村内教育施設・診療所の再開、特別養護老人ホームの開設、復興公営住宅の整備、複合商業施設・温水プールの開設をはじめ、復興の取組が進められ、徐々に村内生活率も高まっている。一方、高齢者率は高止まりしており、若年層にとって魅力的な村づくりが重要となっている。他方、長年の経験で培った農業技術などを持ち、定年後も元気に活躍する高齢者も増えてきている。

このため、川内村の風土を活かした、

- ①地域一体となった教育をはじめとした「ひとづくり」、
 - ②魅力的な住まいや景観形成などの「まちづくり」、
 - ③人と人をつなぐ村民総参加の「コミュニティづくり」
- の取組などが進められている。

	H27.4	H28.4	H29.4	H29.6
村内生活者数	1,602	1,779	2,173	2,181
村内生活率	58.9%	64.5%	80.3%	80.6%
高齢者率	39.8%	40.3%	39.4%	39.2%

保育園無償化、放課後子供教室開設、海外ホームステイ、高校への通学支援などの取組を通じ、ひとりひとりに寄り添う、充実した教育環境づくりを推進していく。

学校・家庭・地域・協力機関（大学等）が一体となった教育体制の構築を目指し、移住を希望する子育て世代を惹きつけるような教育を目指す。



子供の遊び場の充実や、公園・プールなど施設を活用したスポーツ大会や健康講座などの開催を通じ、健康づくりを推進する。

社会人以降においても、村外有識者の招致など、他自治体などの成功事例に学ぶ機会をつくり、復興に向けた人材育成に取り組む。

商工会主催講演会の開催
(全2回計100名超参加)



具体的取組：教育環境の充実化

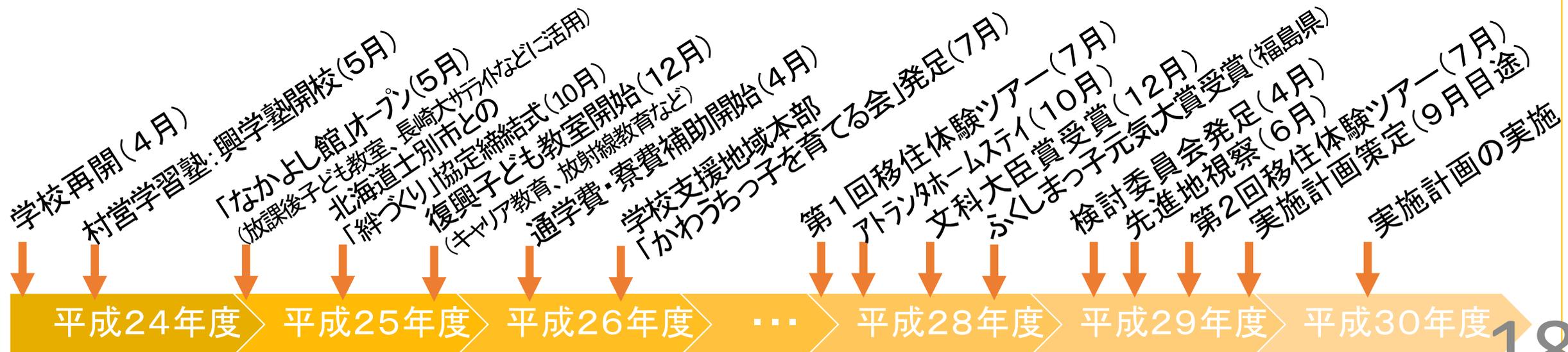
(基本的な方向性)

学校・家庭・地域・大学等協力機関が一体となり、一人一人に寄り添う充実した教育環境づくりを目指す。

(今後の取組)

英語教育の強化など、充実した教育環境について「川内村教育環境整備検討委員会」において、「原子力災害からの教育復興、人口減少社会やグローバル化等の社会変容に対応する新たな教育体制の在り方」を検討していく。

福島県のモデル教育自治体（地域学校協働活動事業）として、地域と学校が共に学び・助け合う学校づくりを進める。ひとり親世帯移住ツアー等を通じて、子育て世代への魅力発信を促進する。



今後、入居可能な住宅、宿泊施設の不足が懸念されることから、空き家などの既存資源の有効活用、民泊、新たな住宅整備の検討を行う。併せて、より魅力的で、村民が誇りに思う村を目指し、景観に配慮した村づくりを進める。



- ✓ **宿泊施設の需要、空き家の把握**を進める
- ✓ **不動産の情報**について、提供の可能性ややり方を検討する
- ✓ **新たな居住者、試行的な居住者**に向けて、**空き家**の活用などを検討する
- ✓ **イベント**などでの**来訪者**に向けて、**民泊**の活用などを検討する
- ✓ 村の魅力を高めるため、**景観に配慮した村づくり**を進める



圃場整備、耕作放棄地の活用

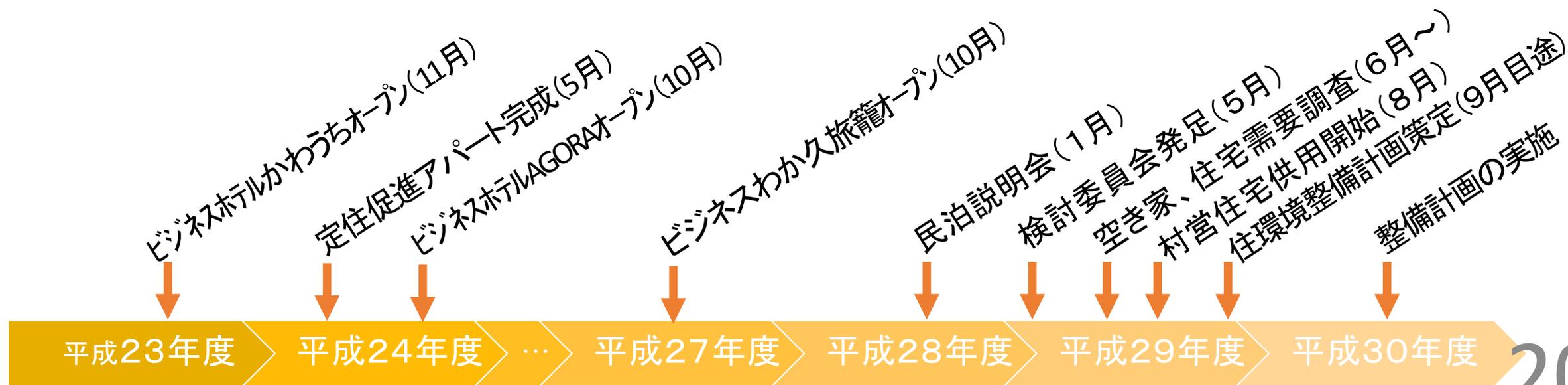
具体的取組：住環境の整備

(基本的な方向性)

移住・滞在希望者の受け入れ環境充実化を目指す。住宅・宅地需要の推移、村づくりの方針を考慮の上、空き家等既存施設の活用方法、住宅建設補助や街並み整備などを検討する。また、イベント等一時的な宿泊需要に応えられるよう、民泊の取組を進める。

(今後の取組)

新築住宅建設費補助や民泊実施に必要な諸制度等の村内への情報発信に取り組む。
また、空き家・住宅需要調査等を行いつつ、空き家の活用等を「川内村住環境整備計画に関する検討委員会」において検討する。街並みの整備についても有識者の意見なども踏まえつつ検討する。
村内不動産情報の収集・提供について検討する。



今後、移住者を含め、共に地域を支える住民同士のコミュニティづくりに向け、イベント開催や交流拠点などの場づくりを推進し、各地域や行政区における賑わいの創出・住民同士の交流を促進する。

また、老若男女、自分たちの出来る範囲で役割を担い、お互いに助け合い、尊重しながら、地域の暮らしを支える村（村民総参加型）の構築を目指す。



元気な高齢者の増加
(野菜勉強会)

- ✓ 高齢者、若者などの交流の取組を進める
- ✓ 交流のための施設の活用・提供、グランドゴルフなどをはじめとするスポーツ施設の整備など、需要や環境に基づき検討をする
- ✓ 住民の間でのイベントや伝統芸能などについて、支え合う取組を進める



マラソン大会での炊き出し(婦人会)

【参考】コミュニティ活動の例

○BON・DANCE実行委員会

「自分の足元をみつめ、社会状況を受け止め、自信と誇りを持って魅力ある村づくりに参画していくことが、村の活性化で重要」との思いから、若手有志が集まり、「気軽に集まり、夢さがし、仲間さがし、自分さがしをしながら、こどもたちをはじめ、村の人・村を離れ生活する人・村に興味がある人が川内村の魅力を感じ、楽しむ」を目的に毎年、多数のアーティストが参加するBON・DANCEを開催。震災の縁もあり、ほぼボランティアで出演するグループもある。



(BON・DANCE実行委員会)

○かわうち親子クラブ

震災後、ひとり親や村外からの移住者の増加に伴い、親・子供同士の絆づくり、また子供が減少する中、子供同士の遊ぶ機会を作るため、毎月、大人も含めスポーツ大会や親子料理教室、芋煮会などを開催。



(かわうち親子クラブ)

※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

1. ひとつづくり

- ① 保育園から中学校までは子供にとって良い環境。ただ、高校へ通わせるには時間やお金がかかる。
- ② 村に戻った子供の奨学金の減免、双葉郡全体での宿舎、頑張っている子への重点的に支援など、様々な観点から検討があるとありがたい
- ③ 「放課後子ども教室」はとても助かっている。
- ④ コミュニケーション能力を磨く教育も必要。
- ⑤ 運動と食事による健康づくりの仕組みが作れるとよい。
- ⑥ 水泳教室があるのは有難い。一方、村内には遊具がなく、子供達の遊び場が不足しているのではないか。アスレチック施設を作ってはどうか。

2. まちづくり

- ① 川内で働こうにも、宿泊施設が足りない。若者就職の引き合いがあったが、住む場所が無い等から辞退された。
- ② 郡山やいわきから通っている人で、川内に住みたいと言っている人も、村内に条件に合うような住宅が無い。

- ③ 住居がなく移住を断念した話もあり、受け皿づくりは必要。一方、空き家や土地を提供してしまうと、近所の方から「もう戻ってこないのか」と言われる。
- ④ 空き家は多い。ただ、空き家を開放するにも片づけに時間もお金もかかる。
- ⑤ 住宅や土地を安く提供できないか。または何年か賃貸で住めば持家になったりするなどできないか。
- ⑥ 交流人口を増やそうにも宿泊施設が少ない。
- ⑦ イベントでも、宿泊できる施設が分からない、又は、存在を知らない等で途中で帰ってしまう人がいた。
- ⑧ かわうちの湯に宿泊施設があればよい。
- ⑨ （民泊に必要な）滅菌器などへの補助が必要。
- ⑩ 滅菌器では、天然の水ではなくなってしまい、川内村へ来訪した良さが失われる。
- ⑪ 旧保育所をリフォームして、農業体験者などの宿泊所にしたい。古民家や廃校の跡地を有効活用したい。
- ⑫ 女性は買い物や、同居に不便を感じているし、おしゃれな店が無い。
- ⑬ 何か施設などを作る際には、センスのある人、プロの人などに頼んだ方がよい。

※ 「ご意見」は事務局での個別の聞き取りを含めている。複数の方のご意見を事務局に於いて一つにまとめていることもあり、ご発言内容そのままではない。

3. コミュニティづくり

- ① 高齢者は助け合いが重要になってくるので、交流施設が必要。
- ② 震災を契機に村をどうしていくかといった議論に関心を持つ人が増えた。
- ③ 中高生などの若い人にも集まれる場所があった方がよいのではないか。
- ④ サイクリングコース、遊歩道、グラウンドゴルフ場など整備したらよいのではないか。東和町、広野町などのグラウンドゴルフ場は人気があるようだ。
- ⑤ 年輩の人達は野球やバレーボールなどのスポーツをよくやっていたので、若い人に教えたがっている。
- ⑥ 以前は年一回集まって飲み会などをやっていた。お互いのことを知るよい機会になった。
- ⑦ 伝統芸能も浦安の舞は人気があるが、西郷獅子はやり手が少ない。

4. その他全般

- ① 復興はトライ&エラー。リスクをとることも必要。
- ② 便利な場所から村に移住するのは大変。それなりの技術と覚悟と楽しみ方を知る必要がある。誰でもではなく、来れる人を受け入れられるように取り組むべき。
- ③ 県道や国道、YO-TASHI、ガソリンスタンド、公衆トイレなど村に来た人が立ち寄る場所に、看板や案内地図を設置してはどうか。カフェや大平圃場など、迷っている人も多い。
- ④ 若い人のやることに支援してあげるべき。
- ⑤ 情報を欲しがっている人は結構いる。SNS等を活用して情報を発信するがよいかもしれない。また、降雪時の路面情報なども、来訪のためには重要。

おわりに

未曾有の震災・原発事故から約6年。川内村では居住人口が8割を超え、村の中での新たな農業、交流イベントなど復興の取組が進んでいる。かわうちかえる会議においても、計4回にわたる、活発な議論の中で建設的・意欲的な提案がなされた。

川内村内では、あちこちで住民の前向きなチャレンジが行われている。こうした色々な取り組みをまとめ、上手に連携していくことが川内村の未来を築いていく。

本年度改訂予定の「第5次川内村総合計画」は、村内全ての避難指示が解除されて初めての村の長期計画となる。今後、かわうちかえる会議での議論をはじめ若者や女性を含め多様な方々の意見を受け止め・取り込みながら、選択を行い、震災後の「川内村」を更に飛躍させる計画となることが期待される。

今後、川内村の復興・創生に向け、「産業」、「交流」、「生活環境」はじめ様々な分野において、住民・民間・行政が連携し、適材適所で役割を担い、スピード感を持って取り組み、成果にしていくことが重要である。



会議委員・参加者のみなさま（参考）

＜川内村のみなさま＞

秋元 活廣 かわうちBON・DANCE

秋元 公夫 実行委員会委員長

秋元 洋子 双葉地方森林組合代表理事組合長／福島県森林組合連合会代表理事会長
秋元 美譽 米農家／川内野菜勉強会会長／林・原管理耕作組合組合長

猪狩 幸夫 株式会社あぶくま川内代表取締役

井出 茂 川内村商工会会長／川内村観光協会会長

井出 裕子 株式会社ダノニ代表取締役／企業組合かわうちとくさん理事長

岩本 泰典 コドモエナジー株式会社代表取締役

遠藤 拓宏 株式会社菊池製作所川内工場副工場長／川内親子クラブ代表

兼子 まや 株式会社KiMiDoRi 技術開発部長（農学博士）

河原 修一 農業生産法人株式会社 緑里／緑樹代表取締役

志賀 泰三 有限会社志賀林業 代表取締役

高野 恒大 行政区長会会長
横田 克幸 川内村地域おこし協力隊

＜有識者＞

丹波 史紀 立命館大学産業社会学部 准教授／ふくしま連復代表理事

山本 慎一郎 一般社団法人RCFシニア マネージャー